

# 反転攻勢を強める年



## 大和田委員長が抱負語る

地方本部は1月7日、2012年旗開きを開催しました。旗開きには県内外の地域労組・政党など約80名の参加者で盛大に行われました。旗開きで大和田委員長は新たな闘いに決意を述べました。昨年は水戸地方本部にとって激動の一年。と切り出し、JR不採用事件は昨年の全国大会で終結を宣言しました。

新事務所で運動がスタートし、心機一転新たな気持ちで課題に取り組み次第です。3・11大震災は甚大な被害をもたらしました。多くの犠牲を払いながらも、全組合員が一丸となり厳しい状況乗り越えて来ました。今後は、組織の多数派を目指す闘いに取り組み決意を述べ年頭の挨拶としました。

# 国労水戸

国労水戸地方本部  
水戸市中央1-1-11  
ENYビル2F  
029-221-4008  
発行責任者 大和田亨  
編集責任者 坂本公則



## 新春学習会

**中村君が飛びであこさう**

地方本部は2年連続の組織拡大で成果を挙げています。今後も組織拡大が我々に取って最大の課題であることに触れ、急ぎよ大和田委員長は中村賢太郎君を指名し、自己紹介と年頭の思いを語り挨拶を行いました。

中村君は予定しない出来事に、戸惑いを見せながらもユーモアを交えながら淡々と挨拶をし、組織の一員として奮闘する決意なども報告されました。

「昨年5月に社会人採用で国労に加入しました。昨年は兎年でもあり、地方を飛び回り多くの方と交流を深めて来たところです。」

今年は昇り龍と言うことで、マイホームも購入し地元で頑張る決意を固めたところです。組織の中では若い組合員ですから、自分として何が出来るのかを考えながら皆さんと共に歩んでいきたい」と挨拶を行いました。



旗開き前段に分会代表者会議を開催し、東本部松井書記長を招き(申第23号2011年6月13日付)、「雇用契約更新期間満了に達した契約社員を取り扱いについての申し入れ」及び組織拡大の取り組みの2点で新春学習会を行いました。

した。

「NF2008における今後の駅のあり方」で位置づけた、大駅・中駅・小駅のすみわけを取り払い、駅の規模に関わらず、利用実態、業務実態等を考慮して、グループ会社への業務委託を拡大する。これまでの委託駅は、エルダー社員とJRからの出向社員で運営してきたが、今後はパートナー会社のプロパー社員を導入することで、JRからの出向社員を減らしていく。運転取扱業務のある駅は、従来通り委託はしないなどの新たな問題点を報告しました。

組織拡大の取り組みについ

ても触れ、JR東日本会社が描く1年後の「会社のあり方」として会社と社員の関係の確立や労働組合の活動制限・弱体化「オープンショップの活用などに指摘しながら、今後の国労運動の展開から組織拡大へと繋ぐことが重要と訴えました。

国労東日本本部は12月20日、「東京電力福島第一原子力発電所事故に起因した放射能汚染への対応及び東日本大震災で被災した社員・家族の取り扱いについての申し入れ」(国労東日本申第7号2011年12月20日付)をJR東日本に対して行いました。